

学校法人 金井学園
福井県医療福祉専門学校
こども・介護学科 介護福祉士コース

2024年度入学生 授業概要

(シラバス)

氏名

カリキュラムの変更や担当講師の事情によっては、実施時期・内容が、変わることがあります。

1年生 前期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
社会福祉論	1	1	水野
文章表現	2	1	小林
ミュージックケア	3	1	宮川
高齢者の生活と福祉	4	1	川端
レクリエーションの基本	5	1	杉田
コミュニケーション技術 I	6	1	寺田
生活援助	7	1	浅田
こころとからだのしくみ I	8	1	マイヤー
人間関係とコミュニケーション I	9	1	川端

1年生 後期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
障がい者の生活と福祉	10	1	小林
コミュニケーション技術 II	11	1	水嶋
福祉レクリエーション I	12	1	辻岡
介護過程 I	13	1	水嶋
発達と老化の理解 I	14	1	マイヤー
認知症の理解 I	15	1	水嶋
こころとからだのしくみ II	16	1	マイヤー

通年開講科目			
科目名	頁	学年	担当
介護概論	17	1	寺田
生活支援技術 I	18	1	寺田
介護総合演習 I	19	1	寺田
介護実習 I	20	1	寺田
障がいの理解	21	1	小林
医療的ケア I	22	1	マイヤー
Welfare Time I	23	1	佐竹/寺田

2年生 前期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
人間関係とコミュニケーションⅡ	24	2	川端
福祉レクリエーションⅡ	25	2	杉田
介護過程Ⅱ	26	2	水嶋
発達と老化の理解Ⅱ	27	2	マイヤー
認知症の理解Ⅱ	28	2	水嶋
医療的ケアⅡ	29	2	マイヤー/ 小林

2年生 後期開講科目			
科目名	頁	学年	担当
事例検討	30	2	介護専任
福祉レクリエーションⅢ	31	2	杉田
介護過程Ⅲ	32	2	川端
こころとからだのしくみⅢ	33	2	小林
健康科学	34	2	杉田
リハビリテーション論	35	2	小林(義)

通年開講科目			
科目名	頁	学年	担当
社会の理解	36	2	小林
生活支援技術Ⅱ	37	2	寺田
生活支援技術Ⅲ	38	2	佐藤
介護総合演習Ⅱ	39	2	水嶋
介護実習Ⅱ	40	2	介護専任
Welfare TimeⅡ	41	2	水嶋/松山

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
社会福祉論	講義		水野 正伸
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回	30時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 福祉実践の根底となる社会福祉の理念を学び、実践において必要な社会福祉の制度や動向を理解し、実践基盤の構築につなげていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉の法的基盤や歴史的変遷を通して、社会福祉の理念と意義を学ぶ。また、社会福祉の制度などを理解し、権利擁護などの社会福祉の基盤を学ぶ。さらに、相談援助を中心とした専門技術を理解し、地域福祉の推進など現代の社会福祉の動向を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史的変遷を理解するとともに、その意義や支援の視点を理解する。 ・社会福祉の制度とその仕組みについて理解する。 ・社会福祉における相談援助の意義と方法を理解する。 ・社会福祉における利用者の保護とその仕組みを理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と課題①－社会福祉の概念について法的基盤から学ぶ 2. 社会福祉の理念と課題②－福祉ニーズおよび社会参加とは何かを学ぶ 3. 社会福祉の理念と課題③－自立と平等の支援のあり方について学ぶ 4. 社会福祉の歴史的変遷①－社会福祉の歴史的な取り組みについて学ぶ 5. 社会福祉の歴史的変遷②－福祉的支援の担い手について学ぶ 6. 社会福祉と各分野の福祉－社会福祉と各分野の福祉とのつながりと、支援の基本的な考え方について学ぶ 7. 利用者の権利擁護－利用者の権利擁護とその実践について学ぶ 8. 社会福祉の制度①－社会福祉の法律について学ぶ 9. 社会福祉の制度②－社会福祉における国および地方公共団体の役割と実施機関について学ぶ 10. 社会保険－社会保険の内容について学ぶ 11. 利用者を保護する仕組み－社会福祉における利用者保護の仕組みについて学ぶ 12. 社会福祉の相談援助①－相談援助の意義と原則について学ぶ 13. 社会福祉の相談援助②－相談援助の方法と技術について学ぶ 14. 社会福祉の動向と課題－少子高齢化の課題と在宅福祉・地域福祉の推進を学ぶ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『生活事例からはじめる 社会福祉』青踏社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 文章表現	授業の種類 演習		授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>実習において必要とされる文章表現を演習を通して理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>敬語や文法、文章の書き方等について基本的な知識を学び、演習を通して、記録やレジュメ、レポートを書く力や要点をまとめる力を身に付ける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>適切な表現方法を用い、実習計画書及び記録、レジュメ等を書式に応じて記入できる技能を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に必要な文章表現 2. 実習に必要な書類の書き方① 3. 実習に必要な書類の書き方② 4. 実習に必要な書類の書き方③ 5. 記録の書き方① 6. 記録の書き方② 7. 記録の書き方③ 8. 記録の書き方④ 9. 記録の書き方⑤ 10. お礼状の書き方 11. レジュメ及び実習報告原稿の書き方① 12. レジュメ及び実習報告原稿の書き方② 13. レジュメ及び実習報告原稿の書き方③ 14. レジュメ及び実習報告原稿の書き方④ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名 ミュージックケア	授業の種類 演習		授業担当者 宮川 深雪
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の現場で、ケアの一環として音楽療法の概要を学び、ミュージック・ケアの理論と技術を身につけ、支援者として心のこもった実践ができるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 1.ミュージック・ケアの理論を学ぶ。2.メソッドの基本曲を中心に目的と技術を習得する。 3.対象者のグループカウンセリング、心身のケアを実際にできるように習得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 現場で、即、実践につながるような技術と支援ができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p style="padding-left: 20px;">介護コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミュージック・ケアの理論と実際 2 楽曲習得①と実践プログラム 3 楽曲習得②と支援の方法 4 楽曲習得③と支援の方法 5 楽曲習得④と支援の方法 6 楽曲習得⑤と支援の方法 7 楽曲習得⑥とまとめ 8 介護コース試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『ミュージック・ケア その基本と実際』 宮本啓子 『だれでも・どこでも・いつでも』 磁場の会 『ミュージック・ケア 実技編』 日本ミュージック・ケア協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・実技試験・レポート提出・受講態度により評価する。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p>	
<p>【担当講師】 宮川深雪：職歴—ミュージックケア指導者歴19年 資格—介護福祉士、社会福祉士、保育士、介護支援専門員、日本ミュージックケア協会認定指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 高齢者の生活と福祉	授業の種類 講義		授業担当者 川端 慶子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者の動向と生活実態について理解し、高齢者福祉及び高齢者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学ぶ。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を理解する内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 			
<p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の動向と生活実態について理解する。 ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解① 2. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解② 3. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向① 4. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向② 5. 介護保険制度のしくみの基礎的理解① 6. 介護保険制度のしくみの基礎的理解② 7. 介護保険制度のしくみの基礎的理解③ 8. 介護保険制度のしくみの基礎的理解④ 9. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割① 10. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割② 11. 介護保険制度における専門職の役割① 12. 介護保険制度における専門職の役割② 13. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解① 14. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規 ※「障がい者の生活と福祉」と同じ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 川端慶子：職歴—介護福祉士歴7年 資格—介護福祉士国家資格、福祉レクリエーションワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
レクリエーションの基本	演習		杉田 美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30 時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>心を元気にするというレクリエーションの主旨を基に楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための考え方や技術を学び、レクリエーション支援の基礎を理解・体得し、レクリエーションの意義を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>レクリエーション概論、心の元気づくりの理論、レク支援の理論、レク支援方法を理論と実技を織り交ぜながら手段であるレク活動を有効に活用するための技術について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>レクリエーション支援と手段としてのレクリエーション活動について学び、人の心の理論を根拠に、ホスピタリティを通したコミュニケーション技法とアイスブレイキングの技術を基に対象者主体のレクリエーション活動を行える支援者となる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:アイスブレイキング体験 2. レクリエーション概論 3. 楽しさと心の元気づくりの理論 4. レクリエーション支援の理論:第1節 5. レクリエーション支援の方法:第1節・ホスピタリティ 6. レクリエーション支援の理論:第2節 7. レクリエーション支援の方法:第2節・アイスブレイキング 8. レクリエーション支援の理論:第3節 9. レクリエーション支援の方法:第3節・ハードル設定とCSSプロセス 10. 安全管理の方法 11. レクリエーション活動の習得・演習Ⅰ 12. レクリエーション活動の習得・演習Ⅱ 13. レクリエーション活動の習得・演習Ⅲ 14. レクリエーション支援のプログラムの立案 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の基本の理論と方法 レクリエーション・インストラクターテキスト (財)日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 ・レク・インストラクターの資格試験を兼ねる。 	

授 業 概 要

授業科目名 コミュニケーション技術 I	授業の種類 演 習		授業担当者 寺田 知生
授業の回数 15 回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>対人援助におけるコミュニケーション技術の基礎を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>コミュニケーションの意義・目的を講義し、グループワークや演習、テキストを用いながら授業を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>基礎のコミュニケーション技術や知識を習得できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションの基本 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 3. コミュニケーションの基本技術 4. コミュニケーションの基本技術 5. コミュニケーション障害への対応 6. 小テスト 7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 9. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 10. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 11. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 12. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 13. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・定期試験・授業態度の総合評価とする。 	
<p>【担当講師】</p> <p>寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
生活援助	演習		浅田 ひとみ
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 日常における基本的な食の知識を身につけ、現場での実践力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生活支援技術 I および、生活支援のための調理実習を基に食生活の基本知識を学習し、同時に調理実習・試食を行い、国家資格取得をめざす。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 正しい栄養・調理の知識を習得し、利用者の身体と心の栄養を配慮できる人材に育成する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】 生活支援技術 I を基に下記予定にて講義学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～2回 栄養の理解① 第3～4回 栄養の理解② 第5～6回 献立の立て方 第7～8回 食品購入と選択・食品衛生 第9～10回 調理の基本・食品の調理性 第11～12回 高齢者・障害者の食事と調理 第13～14回 疾患と食事・まとめテスト・解説 第15回 試験 <p>また調理実習も同時に行い、調理技術も学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3～4回 和風総菜①(炊き込みご飯・肉じゃが・青菜の煮びたし) 第5～6回 洋風総菜①(蒸し魚のオーロラソースかけ・かき玉スープ・ポテトサラダ) 第7～8回 中華総菜①(八宝菜・きゅうりとわかめの中華和え・オレンジゼリー) 第9～10回 和風総菜②(巾着煮・具沢山味噌汁・ミルクきな粉もち) 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 *新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I (中央法規) *生活支援のための調理実習 (建帛社)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 定期テスト及び出席状況、授業態度 レポートなどで総合評価</p>	
<p>【担当講師】 浅田ひとみ：職歴—料理教室講師 資格—調理師</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こころとからだのしくみ I	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能およびケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>人のこころやからだのしくみに関する基本的な医学的知識を根拠を持って理解できるよう指導する。それを介護の視点で生かすことができるよう「生活支援技術」と連動して進めていく。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」とは何か 2. こころのしくみを理解する① 3. こころのしくみを理解する② 4. こころのしくみを理解する③ 5. からだのしくみを理解する① 6. からだのしくみを理解する② 7. からだのしくみを理解する③ 8. からだのしくみを理解する④ 9. 身じたくに関連したしくみ① 10. 身じたくに関連したしくみ② 11. 身じたくに関連したしくみ③ 12. 移動に関連したしくみ① 13. 移動に関連したしくみ② 14. 移動に関連したしくみ③ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」中央法規 「からだの事典」 成美堂出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴一看護師歴7年 資格一看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーション I	演習		川端 慶子
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を学ぶ。 ・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学ぶ。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権思想と、福祉理念の歴史的変遷 ・人間の尊厳と、人権尊重及び権利擁護の考え方 ・自立の意味と、本人主体の観点からの尊厳の保持や自己決定の考え方 ・人間関係の形成に必要な心理的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能の理解 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の理解を基礎としての尊厳の保持と自立を理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を修得する。 ・対人援助に必要な関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を修得する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人間の尊厳と利用者主体 2. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権思想の潮流とその具現化 3. 人間の尊厳と人権・福祉理念－社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 4. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権や尊厳に関する日本の諸規定、人権尊重と権利擁護 5. 自立のあり方－自立の概念と多様性 6. 自立のあり方－要介護者の尊厳と自立、自立支援の必要性 7. 人間と人間関係－自分と他者の認識のずれについて考える 8. 人間と人間関係－少数派が集団を変えるために必要なことを考える 9. 対人関係におけるコミュニケーション－関係性によるあいさつの違いに含まれるメッセージについて考える 10. 対人関係におけるコミュニケーション－非言語の種類とメッセージについて考える 11. 対人援助関係とコミュニケーション－傾聴について考える 12. 対人援助関係とコミュニケーション－バイステックの7つの原則について考える 13. 組織におけるコミュニケーション－組織のコミュニケーションについて考える 14. 組織におけるコミュニケーション－ブレインストーミングをやる 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>川端慶子：職歴－介護福祉士歴7年 資格－介護福祉士国家資格、福祉レクリエーションワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名 障がい者の生活と福祉	授業の種類 講義		授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解し、障害者福祉及び障害者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解する内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を理解する内容。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態について理解する。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態① 2. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態② 3. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 4. 介護実践に関連する諸制度－障害者虐待防止法の基本的理解 5. 介護実践に関連する諸制度－障害者差別解消法の基本的理解 6. 障害者総合支援制度創設の背景と目的① 7. 障害者総合支援制度創設の背景と目的② 8. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解① 9. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解② 10. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解③ 11. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解④ 12. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解⑤ 13. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割① 14. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)とボランティア体験への取り組み、試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護の現場では、さまざまな専門職がチームを形成し、総合力で利用者の生活を支えている。利用者やその家族、他職種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身に付けるために必要な知識と方法を学ぶ。その他、記録の活用がケアの質向上につながることを理解するとともに、正しく記録を書けるようになることを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>「チームにおけるコミュニケーション」「記録の技術」「会議及び事例検討に関する技術」などについて、テキストを用いながらワークを取り入れ学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員間および他職種(専門職)間で協働的な関係を築くことができる。 ・記録の意義・目的について理解し、正しい書き方で記録ができる。 ・チームで一つの目的を達成するためのコミュニケーションについて理解することができる。 			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とのコミュニケーション 2. 家族とのコミュニケーション 3. チームのコミュニケーションとは 4. 報告・連絡・相談の技術 5. 記録の技術 6. 記録の技術 7. 会議・事例検討に関する技術 8. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 9. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 10. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 11. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 12. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 13. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 14. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>『最新介護福祉士養成講座5 第2版 コミュニケーション技術』中央法規出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・授業態度(小テストや提出物等を含む)と試験の総合評価とする。 	
<p>【担当講師】</p> <p>水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーション I	授業の種類 演習		授業担当者 辻岡 世紀子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>福祉の現場で行うレク支援のためのハードル設定、SSSプロセスなどのレクリエーションの支援技術習得と、その支援技術を対象者に安心して参加してもらう為の提供の方法を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象者に合わせたレク活動を選択し、活動現場にあわせたプログラムの立案を作成すること。プログラミングしたものを対象者との相互のかかわりの中で活かせる支援技術が身につくように演習を行い、人の心の理論とレク技術を合わせることを理解を通したレク技術を向上させる。また、心が元気になるようなCSSプロセスに基づいての支援方法等の技術を習得させる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>対象者に合わせたプログラム作成をもとに、心が元気になるレク活動の選択とレク支援が実践できるようにする。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の習得 I 2. レクリエーション活動の習得 II 3. レクリエーション活動の習得 III 4. レクリエーション活動の習得 IV 5. CSSプロセスに基づいた支援法 I 6. CSSプロセスに基づいた支援法 II 7. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開体験 8. 小集団の相互作用を活かしたプログラム立案 9. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 I 10. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 II 11. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 III 12. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 IV 13. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 V 14. レクリエーション支援の理論確認 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・楽しさをおした心の元気づくり 公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・学内試験、出席状況、受講態度、課題提出などの 総合評価とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を認定する。 *福祉レクワーカー資格取得は、学内試験とは別に 日本レクリエーション協会が実施する筆記試験・ 実技試験(個別・集団援助)を受験する。 実技試験は学外試験と兼ねる。</p>	
<p>【担当講師】 辻岡世紀子:職歴—保育士歴29年、レクリエーション・インストラクター養成講習会講師歴26年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、日本レクリエーション協会公認指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 介護過程 I	授業の種類 講 義		授業担当者 水嶋 美和		
授業の回数 30 回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護過程 I IIを通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思考過程を理解する。 したがって介護過程 I では、介護過程の意義目的を理解する。また生活上の課題を見出すために、どのように人を理解していくのか等を考えながら、アセスメント力を高める。ここでは、情報収集の方法を習得しながら、情報読み取る力、情報の持つ意味を考える力、利用者の立場に立ちながら、生活上の課題を考える力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>パワーポイントを用い介護過程の展開の方法を講義する。 実習体験や事例、グループワークを通し、介護過程の展開を理解できるよう工夫する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護過程(思考過程)を理解し、アセスメント力を高める。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程 </td> <td style="vertical-align: top;"> 16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程	16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験
1. 「生活」とは 2. 高齢者の生活の理解 3. 「かわり」について考える 4. 利用者の願いや思いに気づく 5. 利用者の願いや思いに気づく 6. 思考過程とはなにか 7. 課題解決思考 8. 課題解決思考 9. 客観的思考 科学的思考とは何か 10. 客観的思考 科学的思考とは何か 11. アセスメントとは 12. 観察とは 13. 情報収集の手段 14. 情報収集の手段 15. ICFと介護過程	16. ICFと介護過程 17. 情報を整理する 18. 情報を整理する 19. 介護過程におけるニーズとは 20. 介護過程におけるニーズとは 21. 事例に基づきアセスメントを行う 22. 事例に基づきアセスメントを行う 23. 事例に基づきアセスメントを行う 24. 事例に基づきアセスメントを行う 25. 事例に基づきアセスメントを行う 26. 事例に基づきアセスメントを行う 27. 目標とは 28. 目標設定の留意点 29. 一連の展開について説明する 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>中央法規 最新介護福祉全書 第9巻「介護過程」(第2版)</p> <p>参考文献 さまざまな事例を用いる</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・筆記試験、授業態度、提出物等の総合評価とする。 			
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名 発達と老化の理解 I	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15 回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達とは 2. 人間の発達段階と発達課題 3. 発達と個人差 4. 老化とは 5. 老年期の発達課題の留意点 6. 老化が及ぼす心理的影響 7. 老いの価値観・受容 8. 高齢者の心の問題と精神障害 9. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活① 10. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活② 11. 老化に伴う知的機能の変化と日常生活 12. 高齢者の症状・疾患の特徴 13. 高齢者に多い症状・訴えと留意点① 14. 高齢者に多い症状・訴えと留意点② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座11・14 「発達と老化の理解」 中央法規出版 プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名 認知症の理解 I	授業の種類 講 義		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後 期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や当事者からの視点から、それぞれの原因疾患に応じた特性があることを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>認知症の原因疾患や原因疾患に応じた特性、その他、認知症に関する医学的な基礎的知識、認知症の人の心理について学び、その人の特性に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>認知症の歴史を踏まえ、現在の認知症ケアの理念について考え、意識して取り組むことができるようになる。また、認知症の特性について医学・行動・心理・生活面からの理解ができ、原因疾患に応じたケアの方法を考えられるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの理念と視点 2. 認知症ケアの理念作成 3. 認知症の人の理解 4. 認知症を取り巻く状況と歴史 5. 認知症の知識(医学的側面から見た認知症の基礎) 6. 認知症の知識(医学的側面から見た認知症の基礎) 7. 認知症の知識(認知症の原因疾患) 8. 認知症の知識(認知症の原因疾患) 9. 認知症の知識(検査・治療・予防) 10. 認知症の人の体験の理解 11. 認知症の人の体験の理解 12. 認知症の人への対応(介護の原則) 13. 認知症の人への対応(アセスメント) 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護ケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 生活支援を行う際に必要となる、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。また、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、心身の状況に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を習得する。そこから利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事に関連したしくみ① 2. 食事に関連したしくみ② 3. 食事に関連したしくみ③ 4. 入浴・清潔保持に関連したしくみ① 5. 入浴・清潔保持に関連したしくみ② 6. 入浴・清潔保持に関連したしくみ③ 7. 排泄に関連したしくみ① 8. 排泄に関連したしくみ② 9. 排泄に関連したしくみ③ 10. 睡眠に関連したしくみ① 11. 睡眠に関連したしくみ② 12. 死にゆく人に関連したしくみ① 13. 死にゆく人に関連したしくみ② 14. 死にゆく人に関連したしくみ③ まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規 「からだの事典」 成美堂出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
介護概論	講義		寺田 知生		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60時間	1年生	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度、諸問題等介護の基本的理論を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護の基本となる介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度について、グループワークや演習、テキストに沿って授業を進める。 DVDなどの視聴覚教材を用いながら、利用者理解、介護サービスの理解に結びつける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護福祉士の専門性について総合的に理解することを目標とする。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・定期試験・授業態度の総合評価とする。 			
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴一介護職員歴14年 資格一介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
生活支援技術 I	演習		寺田 知生		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30 回(最終回は試験)	60 時間	1年	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>利用者の尊厳を尊重し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、さまざまな介護場面において適切に実践できる能力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>基本的な介護技術の目的・留意点を講義し、演習にて基本的技術を習得できるよう授業を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>心身の状況に応じた介護を提供できるよう介護技術の基本となる知識・技術を習得する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 	<ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験
<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 	<ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>中央法規 最新介護福祉全書 第6巻「生活支援技術 I」(第2版) 最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術 II」(第2版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと 上記の総合評価によって単位を認定する。 			
<p>【担当講師】</p> <p>寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 介護総合演習 I	授業の種類 演 習		授業担当者 寺田 知生		
授業の回数 30 回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護実習の意義、目的について理解し、実習における準備(書類作成や心構え)、実習中(実習目標の設定、記録やカンファレンスの実施)、実習後の振り返りなどを通し、利用者理解、サービス事業所・施設の理解に努める。また実習を振り返り、自分自身の課題を明確にする機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護実習の意義、事業所の概要、介護実習の心構えを講義する。実習前の準備や確認、実習中の指導、実習後の振り返る機会を作る。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護実習の意義について理解し、介護に必要な知識、技術を活かすことができる。実習後の課題を明確にし、介護実習Ⅱへ向けて自己の課題の確認ができることを目標とする。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り	16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験
1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り	16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・2/3以上の出席。 ・筆記試験・提出物・ボランティアへの参加・授業態度の総合評価とする。</p>			
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
介護実習 I	実習		介護専任
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
	160 時間	1年生	通年
<p>【授業の目的・ねらい】 様々な生活の場において、コミュニケーションの実践、介護技術の確認、対人援助におけるマナー等を習得し、個々の目標達成に向け課題を明確にし、実践する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習 I a(老人福祉施設、老人保健施設のいずれか)および介護実習 I b(通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護のいずれか)で実習を行う。 ・介護実習目標に沿って、指導者のスーパービジョンを受けながら主体的に実習に取り組む。 ・多くの利用者との出会い、介護を必要とする人の理解およびその必要な技術を習得する。 ・実習では疑問を言語化、文章化し、解決に努力する。 ・さまざまな暮らしの場を理解できる。 以上の内容について、学生が自主的に取り組んでいく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・利用者の状態、状況を把握し、個々に応じた介護の知識、技術を理解・実践できる。 ・介護業務内容を理解し、目標に沿った介護行動の実際や利用者の反応、結果や考察を記録できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>配属実習</p> <p>①介護実習 I a(80時間)を入所施設にて実習を行う。</p> <p>②介護実習 I b(80時間)を居宅サービスおよび地域密着型サービス(指定介護老人福祉施設を除く)で実習を行う。</p> <p style="margin-left: 20px;">指定規則第五条第一項第十四号イに規定する厚生労働大臣が別に定めるもの ・老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業並びに老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム ・介護保険法に規定する指定居宅サービス(訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所、指定地域密着型サービスを行う事業所、指定施設サービスを行う施設、指定介護予防サービス(介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与及び介護予防特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所及び指定介護予防地域密着型サービスを行う事業所 ・障害者総合支援法に規定する障害福祉サービス事業及び障害者支援施設</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 実習の手引き、介護総合演習 I テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・4/5以上の出席。 ・実習態度、実習記録など実習施設による総合評価に基づき、実習担当教員の協議により総合的に判定する。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 障がいの理解	授業の種類 講義		授業担当者 小林 栄		
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60時間	配当学年 1年生	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>障害の基礎的理解として障害の概念・障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人の生活や障害種別の理解をしようとして、その根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害の概念については「人間と社会」と関連づけながら進めていく。医学的側面からの基礎知識としてそれぞれの障害について、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を「生活支援技術」と関連づけて理解できるよう留意する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害のある人の心理や基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト	16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験
1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト	16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座14 「障害の理解」 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、及び総合評価60点以上で単位を与える。 			
<p>【担当講師】 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>					

授 業 概 要

授業科目名 医療的ケア I	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳		
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60時間	配当学年 1年生	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士による医療的ケア実施の社会的背景や、喀痰吸引などの医療的ケアが合法化されたことを理解する。医療職との連携のもとで喀痰吸引、経管栄養を安全に実施できるための必要な知識、倫理観を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」などについての基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として医療的ケアを実施することの意義、喀痰吸引、経管栄養等に必要な知識、倫理観について理解する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. なぜ医療的ケアを行うのか 2. 医行為と制度について 3. 医行為と制度について 4. 安全な療養生活 ① 5. 安全な療養生活 ② 6. 安全な療養生活 ③ 7. 感染予防と清潔保持 ① 8. 感染予防と清潔保持 ② 9. 健康状態の把握 ① 10. 健康状態の把握 ② 11. 呼吸のしくみと働き 12. 喀痰吸引とは 13. 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 14. 救急蘇生 演習 15. 人工呼吸器と吸引 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16. 人工呼吸器と吸引② 17. 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 18. 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 19. 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 20. 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 21. 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 22. 経管栄養剤の知識 23. 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 24. 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 25. 経管栄養に関する感染予防・安全確認 26. 急変時の対応と報告・記録 27. 経管栄養の実施手順 28. 経管栄養の実施手順 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. なぜ医療的ケアを行うのか 2. 医行為と制度について 3. 医行為と制度について 4. 安全な療養生活 ① 5. 安全な療養生活 ② 6. 安全な療養生活 ③ 7. 感染予防と清潔保持 ① 8. 感染予防と清潔保持 ② 9. 健康状態の把握 ① 10. 健康状態の把握 ② 11. 呼吸のしくみと働き 12. 喀痰吸引とは 13. 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 14. 救急蘇生 演習 15. 人工呼吸器と吸引	16. 人工呼吸器と吸引② 17. 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 18. 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 19. 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 20. 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 21. 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 22. 経管栄養剤の知識 23. 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 24. 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 25. 経管栄養に関する感染予防・安全確認 26. 急変時の対応と報告・記録 27. 経管栄養の実施手順 28. 経管栄養の実施手順 29. まとめ 30. 試験
1. なぜ医療的ケアを行うのか 2. 医行為と制度について 3. 医行為と制度について 4. 安全な療養生活 ① 5. 安全な療養生活 ② 6. 安全な療養生活 ③ 7. 感染予防と清潔保持 ① 8. 感染予防と清潔保持 ② 9. 健康状態の把握 ① 10. 健康状態の把握 ② 11. 呼吸のしくみと働き 12. 喀痰吸引とは 13. 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 14. 救急蘇生 演習 15. 人工呼吸器と吸引	16. 人工呼吸器と吸引② 17. 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 18. 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 19. 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 20. 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 21. 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 22. 経管栄養剤の知識 23. 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 24. 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 25. 経管栄養に関する感染予防・安全確認 26. 急変時の対応と報告・記録 27. 経管栄養の実施手順 28. 経管栄養の実施手順 29. まとめ 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版</p> <p>プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。</p> <p>・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。</p>			
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
Welfare Time I	演 習		寺田 知生・佐竹 友美		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30 回	60 時間	1年	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、行事やイベント等への取り組み姿勢、提出物の総合評価 ・3分の2以上の出席 			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーションⅡ	演習		川端 慶子
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回	30時間	2年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容である。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を修得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践におけるチームマネジメントーヒューマンサービスとしての介護サービス 2. 介護実践におけるチームマネジメントー介護現場で求められるチームマネジメント 3. 介護実践におけるチームマネジメントー介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 4. ケアを展開するためのチームマネジメントーケアを展開するために必要なチームとその取り組み 5. ケアを展開するためのチームマネジメントーチームでケアを展開するためのマネジメント 6. ケアを展開するためのチームマネジメントーチームの力を最大化するためのマネジメント 7. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職のキャリアと求められる実践力 8. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職としてのキャリアデザイン 9. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー介護福祉職のキャリア支援・開発 10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントー自己研鑽に必要な姿勢 11. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の構造 12. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の機能と役割 13. 組織の目標達成のためのチームマネジメントー介護サービスを支える組織の管理 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 川端慶子：職歴ー介護福祉士歴7年 資格ー介護福祉士国家資格、福祉レクリエーションワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
福祉レクリエーションⅡ	演習		杉田美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	2年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>福祉レクリエーションサービスの理論と根拠に基づき、様々な年齢の対象者にあわせたレクリエーションの実践を学び、その援助方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象年齢に合わせた手遊び、ゲーム、歌、ダンス、体操等、様々なレク財の技術、その援助方法を習得する。従来のレク財を対象者に合わせてアレンジする技術を学ぶ。行事にあわせたプログラム作成、運営する技術を習得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>様々なレク財を対象者にあわせてアレンジし行事のプログラムに組み込み企画し、運営できるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事にあわせたプログラムの企画① 2. 行事にあわせたプログラムの企画② 3. コミュニケーションワークショップ① 4. コミュニケーションワークショップ② 5. 対象者にあわせた手遊び① 6. 対象者にあわせた手遊び② 7. 行事にあわせたプログラムの企画③ 8. 行事にあわせたプログラムの企画④ 9. 対象者にあわせたオノマトペ体操① 10. 対象者にあわせたオノマトペ体操② 11. 対象者にあわせたゲーム① 12. 対象者にあわせたゲーム② 13. 発表① 14. 発表② 15. 試験 			
<p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス 実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し 60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
介護過程Ⅱ	講義		水嶋 美和		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60時間	2年	前期		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護過程ⅠⅡを通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思考過程を理解する。介護過程Ⅰにおいて、習得した知識を活かし、さまざまな生活場面における事例に基づき、介護過程を展開できる能力を養う。 チームで利用者を支えることや多職種連携の必要性を理解し、多角的に捉える視点を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>実習での介護過程を展開に備え、演習を繰り返し行う。 テキストを用い、介護過程の計画立案、実施、評価の目的、記録、多職種協働の重要性について講義する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護過程の理論と介護実習を関連づけながら、介護過程を展開できる。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 事例に基づきアセスメントを行う 3. 事例に基づきアセスメントを行う 4. 事例に基づきアセスメントを行う 5. 事例に基づきアセスメントを行う 6. 事例に基づきアセスメントを行う 7. 事例に基づきアセスメントを行う 8. 事例に基づきアセスメントを行う 9. 長期目標、短期目標 10. 目標設定の留意点 11. 支援の内容について 12. 支援の内容について 13. 実施と記録 14. カンファレンス 15. モニタリング・評価 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 事例に基づきアセスメントを行う 3. 事例に基づきアセスメントを行う 4. 事例に基づきアセスメントを行う 5. 事例に基づきアセスメントを行う 6. 事例に基づきアセスメントを行う 7. 事例に基づきアセスメントを行う 8. 事例に基づきアセスメントを行う 9. 長期目標、短期目標 10. 目標設定の留意点 11. 支援の内容について 12. 支援の内容について 13. 実施と記録 14. カンファレンス 15. モニタリング・評価 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 事例に基づきアセスメントを行う 3. 事例に基づきアセスメントを行う 4. 事例に基づきアセスメントを行う 5. 事例に基づきアセスメントを行う 6. 事例に基づきアセスメントを行う 7. 事例に基づきアセスメントを行う 8. 事例に基づきアセスメントを行う 9. 長期目標、短期目標 10. 目標設定の留意点 11. 支援の内容について 12. 支援の内容について 13. 実施と記録 14. カンファレンス 15. モニタリング・評価 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程 〈中央法規出版〉 楽しく学ぶ 介護過程 〈時潮社〉 様々な事例を使う</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・2/3以上の出席および総合評価60点以上で単位を与える。 ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。</p>			
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関しての基礎的な知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多い病気① 骨格系・筋系 2. 高齢者に多い病気② 脳・神経系 3. 高齢者に多い病気③ 皮膚・感覚器系 4. 高齢者に多い病気④ 循環器系 5. 高齢者に多い病気⑤ 呼吸器系 6. 高齢者に多い病気⑥ 消化器系 7. 高齢者に多い病気⑦ 腎・泌尿器系 8. 高齢者に多い病気⑧ 内分泌・代謝系 9. 高齢者に多い病気⑨ 歯・口腔疾患 10. 高齢者に多い病気⑩ 悪性新生物 11. 高齢者に多い病気⑪ 感染症・精神疾患 12. 保健医療職との連携① 13. 保健医療職との連携② 14. まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座11・14 「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 自作プリント</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
認知症の理解Ⅱ	講義		水嶋 美和
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	2年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 これまでに学んだ認知症に関する基礎的知識を基に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。また、認知症に関連した制度を学び、多職種や地域の人と連携し、地域で認知症の人を支える必要性とその方法についても学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストに沿い、認知症ケアの実際、家族の心理及び支援、環境、地域における支援などが理解できるよう講義をしていく。その他、事例を通して、認知症の方特有の問題点、課題を探り、生活支援について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 認知症の基本症状や状態像を理解し、その方の暮らしの在り方を考えられる。 家族を支援する必要性を学び、ともに認知症の人を支えていくための支援を考え実践することができる。 認知症の人が地域で暮らすための必要性を理解し、具体的な支援方法を考え示すことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの歴史 これまでと今とこれから 2. 認知症ケアの歴史と理念 3. 認知症ケアの実際(アセスメントツール) 4. 認知症ケアの実際(ひもときシート) 5. 認知症ケアの実際(ひもときシート) 6. 認知症ケアの実際(認知症の人とのコミュニケーション) 7. 認知症の人へのケア 8. 認知症の人へのケア 9. 認知症の人へのケア(認知症の人へのさまざまなアプローチ) 10. 環境づくり 11. 介護者支援 12. 認知症の人の地域生活支援(制度・サービス) 13. 認知症の人の地域生活支援(多職種連携と協働) 14. 1年次からのまとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座13 第2版 「認知症の理解」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。 	
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医療的ケアⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 マイヤー 瞳/小林 栄
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
【授業の目的・ねらい】			
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。			
【授業全体の内容の概要】			
個人の尊厳、医療の倫理に基づき、根拠をもって喀痰吸引、経管栄養が実施できるための基礎知識、実施手順が理解できる内容とする。演習では安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する内容とする。			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】			
個人の尊厳、医療の倫理に基づいた、安全な喀痰吸引、経管栄養の手技を理解し、確実に実施することが出来る。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 経管栄養の実施の手順と留意点 2. 経管栄養の実施の手順と留意点 3. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ① 4. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ② 5. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ③ 6. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ④ 7. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ⑤ 8. まとめ 筆記試験 9. 喀痰吸引 基本研修(演習)① 10. 喀痰吸引 基本研修(演習)② 11. 喀痰吸引 基本研修(演習)③ 12. 喀痰吸引 基本研修(演習)④ 13. 経管栄養 基本研修(演習)① 14. 経管栄養 基本研修(演習)② 15. 試験 			
【使用テキスト・参考文献】 最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版 第2版 プリント配布		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。	
【担当講師】 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師			

授 業 概 要

授業科目名 事例検討	授業の種類 演習		授業担当者 介護専任
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 実践報告の意義と目的を理解し、自らの実習での取り組みをまとめ報告のための知識や技術を学び。また、実践報告会を通して実践にかかわる意識の向上を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実践報告の意義や目的を学び、自らの実習での取り組みを実践報告にまとめていく。また、学外の実践報告会に参加し、報告とその場でのディスカッションを聞きながら自身の考えを深めていく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践報告の意義や目的について理解する。 ・実践報告のための基礎的な知識や技術について理解する。 ・社会福祉の実践において自身の考えを深める。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践報告とは 2. 実践報告の意義と目的① 3. 実践報告の意義と目的② 4. 実践報告の方法 5.) 6.) 7.) 8.) 9.) 10.) 11.) 12.) 13.) 14.) 15. 試験 <p style="margin-left: 100px;">・介護実習での実践を実践報告にまとめる。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜、プリントを配布する。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業に対する取り組み姿勢や提出物等の内容を踏まえた総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
福祉レクリエーションⅢ	演習		杉田美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	2年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>総合的に福祉レクリエーションの介入技術（個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法）や対象者と現場にあわせたレクリエーション活動のアレンジ方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開について個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法等、演習形式で学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>作成したプログラムに対して、様々な介入技術を使い事業所等で実践する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認① 2 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認② 3 レクプログラムプランニング演習①-集団援助プログラム- 4 レクプログラムプランニング演習②-集団援助プログラム- 5 障害者スポーツ 6 個人へのレクリエーション支援の構造と展開① 7 個人へのレクリエーション支援の構造と展開② 8 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験)対策① 9 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験)対策② 10 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験) 11 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 集団) 12 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 個別) 13 コミュニケーションワークショップ① 14 コミュニケーションワークショップ② 15 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 筆記試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義		授業担当者 川端 慶子
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護過程Ⅰ・Ⅱを踏まえ介護過程の実践に必要な知識を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「介護過程の意義」「介護過程の展開」「介護過程の実践的展開」「介護過程のチームアプローチ」について、テキストを用いて学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護過程の知識を深め、介護過程の実践に必要な知識を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義 2. 介護過程の展開—情報収集とアセスメント 3. 介護過程の展開—情報収集の方法 4. 介護過程の展開—情報の解釈・関連づけ・統合化 5. 介護過程の展開—課題の明確化 6. 介護過程の展開—ICFと介護過程 7. 介護過程の展開—課題、目標 8. 介護過程の展開—計画 9. 介護過程の展開—実施 10. 介護過程の展開—評価 11. 介護過程の実践的展開① 12. 介護過程の実践的展開② 13. 介護過程とチームアプローチ① 14. 介護過程とチームアプローチ② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護過程Ⅰ・Ⅱ で使用したテキスト 『介護福祉士国家試験受験 ワークブック2023 下』中 央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 川端慶子：職歴—介護福祉士歴7年 資格—介護福祉士国家資格、福祉レクリエーションワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 講義		授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「こころとからだのしくみⅠ、Ⅱ」「老化の理解Ⅰ、Ⅱ」「障害の理解」の知識の定着と理解を深め、どのような障害や病気があっても、その人が望む環境の中で「活動」「参加」し続けられるような支援について概説する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護の視点から、いつもと異なる利用者の生活状態に早めに気づくことのできる医学的知識と、多職種との連携の必要性を理解できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころとからだ こころのしくみ ① 2. こころとからだ こころのしくみ ② 3. こころとからだ からだのしくみ ① 4. こころとからだ からだのしくみ ② 5. こころとからだ からだのしくみ ③ 6. こころとからだ からだのしくみ ④ 7. こころとからだ 身じたく・移動に関するしくみ 8. こころとからだ 食事・入浴に関するしくみ 9. こころとからだ 排泄・睡眠に関するしくみ 10. こころとからだ 排泄・睡眠に関するしくみ 11. こころとからだ 死に行く人に関するしくみ 12. こころとからだ 死に行く人に関するしくみ 13. こころのしくみ まとめ 14. からだのしくみ まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新・介護福祉士養成講座 11・14 第2版 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 「からだの事典」 成美堂出版 自作プリント</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 健康科学	授業の種類 講義		授業担当者 杉田美瑛
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 健康科学のテキストにより科学的に健康づくりを学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活設計 2. 身近な病気① ～ 食中毒 ～ 3. 身近な病気② ～ がん ～ 4. 身近な病気③ ～ 薬害 ～ 5. 身近な病気④ ～エイズ～ 6. 健康と運動 7. 健康と食生活 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 自作資料</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目試験の結果により判定し評価する。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 リハビリテーション論	授業の種類 演習		授業担当者 小林 義文
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの基礎知識を履修すること。 ・介護とリハビリテーションの融合を図り、自立支援に向けた介護を実践できる知識や技術を習得する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 ・運動学 ・運動療法 ・疾患の特性とリハビリテーションについて ・ボディメカニクスについて ・リハビリテーション介護 <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に必要な身体面を中心とした、医学的知識。 ・介護が必要になる要因となる疾患に即した、介護技術の習得。 ・自立支援に向けた介護手法の習得。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1～2. リハビリテーションの理論と組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの考え方や歴史、ノーマライゼーション、障害を持つ人々の自立 ・変わる地域社会の理解、チームアプローチ、かかわる領域と専門職種を理解する ・ICFと自立支援 <p>3～5. 移乗・移乗に関する基本概念と福祉用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味と目的 ・多職種連携 ・福祉用具の種類と適応、アセスメント <p>6～8. 障害別リハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由、内部障害、重度心身障害に分けたリハビリテーションの考え方 ・難病や重度重複障害など進行性疾患に対するリハビリテーション <p>9～10. 発達と老化からみたリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達途上の子どもたちへのリハビリテーション ・高齢者の症状・疾患とリハビリテーション ・保健医療との連携 <p>11～14. リハビリテーション介護実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢と体位変換、移乗動作と車いす、歩行・移動補助具、これまでの振り返りなど <p>15 最終講 試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座1-15 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述試験と出席率 	
<p>【担当講師】</p> <p>小林義文：職歴—理学療法士歴38年、大学/専門学校非常勤講師歴20年 資格—理学療法士</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者																														
社会の理解	講義		小林 栄																														
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期																														
30回	60時間	2年生	通年																														
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を学び、生活と社会の関係性を体系的に捉える学び。 ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を学ぶ。 ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて学ぶ。 ・高齢者及び障害者の権利擁護等の制度について、介護実践に必要な基礎的な知識を学ぶ。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人」「家族」「地域」「社会」のしくみと、地域における生活の構造について学ぶ、生活と社会の関わりや「自助」「互助」「共助」「公助」の展開について理解する内容。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する内容。 ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。 ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を修得する。 ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 ・高齢者及び障害者の権利擁護等の制度について、介護実践に必要な基礎的な知識を修得する。 																																	
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる</td> <td style="width: 50%; border: none;">16. 日本の社会保障制度のしくみ①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能</td> <td style="border: none;">17. 日本の社会保障制度のしくみ②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化</td> <td style="border: none;">18. 日本の社会保障制度のしくみ③</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割</td> <td style="border: none;">19. 日本の社会保障制度のしくみ④</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割</td> <td style="border: none;">20. 現代社会と社会保障制度①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会</td> <td style="border: none;">21. 現代社会と社会保障制度②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援</td> <td style="border: none;">22. 個人の権利を守る制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①</td> <td style="border: none;">23. 個人の権利を守る制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②</td> <td style="border: none;">24. 保健医療に関する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③</td> <td style="border: none;">25. 保健医療に関する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④</td> <td style="border: none;">26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">12. 社会保障の基本的な考え方①</td> <td style="border: none;">27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">13. 社会保障の基本的な考え方②</td> <td style="border: none;">28. 地域生活を支援する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">14. 日本の社会保障制度の発達①</td> <td style="border: none;">29. 地域生活を支援する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">15. 日本の社会保障制度の発達②</td> <td style="border: none;">30. 試験</td> </tr> </table>				1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる	16. 日本の社会保障制度のしくみ①	2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能	17. 日本の社会保障制度のしくみ②	3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化	18. 日本の社会保障制度のしくみ③	4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割	19. 日本の社会保障制度のしくみ④	5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割	20. 現代社会と社会保障制度①	6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会	21. 現代社会と社会保障制度②	7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援	22. 個人の権利を守る制度・施策①	8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	23. 個人の権利を守る制度・施策②	9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	24. 保健医療に関する制度・施策①	10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	25. 保健医療に関する制度・施策②	11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④	26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①	12. 社会保障の基本的な考え方①	27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②	13. 社会保障の基本的な考え方②	28. 地域生活を支援する制度・施策①	14. 日本の社会保障制度の発達①	29. 地域生活を支援する制度・施策②	15. 日本の社会保障制度の発達②	30. 試験
1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる	16. 日本の社会保障制度のしくみ①																																
2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能	17. 日本の社会保障制度のしくみ②																																
3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化	18. 日本の社会保障制度のしくみ③																																
4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割	19. 日本の社会保障制度のしくみ④																																
5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割	20. 現代社会と社会保障制度①																																
6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会	21. 現代社会と社会保障制度②																																
7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援	22. 個人の権利を守る制度・施策①																																
8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	23. 個人の権利を守る制度・施策②																																
9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	24. 保健医療に関する制度・施策①																																
10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	25. 保健医療に関する制度・施策②																																
11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④	26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①																																
12. 社会保障の基本的な考え方①	27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②																																
13. 社会保障の基本的な考え方②	28. 地域生活を支援する制度・施策①																																
14. 日本の社会保障制度の発達①	29. 地域生活を支援する制度・施策②																																
15. 日本の社会保障制度の発達②	30. 試験																																
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テスト、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>																															
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>																																	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
生活支援技術Ⅱ	演習		寺田 知生		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60 時間	2年	通 年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>利用者住まいの関係性や環境整備の重要性を理解する。また介護サービスにおける居住環境の知識を身につける。</p> <p>利用者の健康的、社会的な生活を営むうえで重要な衣・住について理解する。</p> <p>終末期に携わる者としての基本姿勢および、支援の知識・技術を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>個々の暮らしを援助する知識について、テキストを用い説明する。</p> <p>個々の状態に応じた介護の技術を提供できるよう演習にて指導する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>専門職としての自覚を持ち、適切で安全に援助できる技術や知識を習得する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習 (裁縫、手縫い) 27. 演習 (裁縫、手縫い) 28. 演習 (裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習 (裁縫、手縫い) 27. 演習 (裁縫、手縫い) 28. 演習 (裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習 (裁縫、手縫い) 27. 演習 (裁縫、手縫い) 28. 演習 (裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉全書 第6巻「生活支援技術Ⅰ」(第2版)</p> <p>最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術Ⅱ」(第2版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・2/3以上の出席。</p> <p>・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと</p> <p>上記の総合評価によって単位を認定する。</p>			
<p>【担当講師】</p> <p>寺田知生：職歴一介護職員歴14年 資格一介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 演習		授業担当者 佐藤 真理子																														
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60時間	配当学年 2年	配当時期 通年																														
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>障害に応じて、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を中心に、意義や目的の理解に重点をおいた指導を行う。また演習ではロールプレイ、グループワークなどを通して理解力、思考力、観察力を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害のある人の生活を理解し、利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉え、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。</p>																																	
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16.</td> <td style="width: 50%;">内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)</td> </tr> <tr> <td>2. 肢体不自由に応じた介護①</td> <td>17. 重症心身障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td>3. 肢体不自由に応じた介護②</td> <td>18. 知的障害に応じた介護</td> </tr> <tr> <td>4. 視覚障害に応じた介護①</td> <td>19. 精神障害に応じた介護①</td> </tr> <tr> <td>5. 視覚障害に応じた介護②</td> <td>20. 精神障害に応じた介護②</td> </tr> <tr> <td>6. 聴覚・言語障害に応じた介護①</td> <td>21. 高次脳機能障害に応じた介護①</td> </tr> <tr> <td>7. 聴覚・言語障害に応じた介護②</td> <td>22. 高次脳機能障害に応じた介護②</td> </tr> <tr> <td>8. 重複障害に応じた介護</td> <td>23. 発達障害に応じた介護①</td> </tr> <tr> <td>9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)</td> <td>24. 発達障害に応じた介護②</td> </tr> <tr> <td>10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)</td> <td>25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)</td> </tr> <tr> <td>11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)</td> <td>26. 難病 パーキンソン病に応じた介護</td> </tr> <tr> <td>12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)</td> <td>27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護</td> </tr> <tr> <td>13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)</td> <td>28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護</td> </tr> <tr> <td>14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)</td> <td>30. 試験</td> </tr> </table>				1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16.	内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)	2. 肢体不自由に応じた介護①	17. 重症心身障害に応じた介護	3. 肢体不自由に応じた介護②	18. 知的障害に応じた介護	4. 視覚障害に応じた介護①	19. 精神障害に応じた介護①	5. 視覚障害に応じた介護②	20. 精神障害に応じた介護②	6. 聴覚・言語障害に応じた介護①	21. 高次脳機能障害に応じた介護①	7. 聴覚・言語障害に応じた介護②	22. 高次脳機能障害に応じた介護②	8. 重複障害に応じた介護	23. 発達障害に応じた介護①	9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)	24. 発達障害に応じた介護②	10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)	25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)	26. 難病 パーキンソン病に応じた介護	12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)	27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護	13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)	28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護	14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)	29. まとめ	15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)	30. 試験
1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16.	内部障害に応じた介護(肝臓機能障害)																																
2. 肢体不自由に応じた介護①	17. 重症心身障害に応じた介護																																
3. 肢体不自由に応じた介護②	18. 知的障害に応じた介護																																
4. 視覚障害に応じた介護①	19. 精神障害に応じた介護①																																
5. 視覚障害に応じた介護②	20. 精神障害に応じた介護②																																
6. 聴覚・言語障害に応じた介護①	21. 高次脳機能障害に応じた介護①																																
7. 聴覚・言語障害に応じた介護②	22. 高次脳機能障害に応じた介護②																																
8. 重複障害に応じた介護	23. 発達障害に応じた介護①																																
9. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害①)	24. 発達障害に応じた介護②																																
10. 内部障害に応じた介護(心臓機能障害②)	25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS)																																
11. 内部障害に応じた介護(呼吸機能障害)	26. 難病 パーキンソン病に応じた介護																																
12. 内部障害に応じた介護(腎機能障害)	27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護																																
13. 内部障害に応じた介護(膀胱・直腸機能障害)	28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護																																
14. 内部障害に応じた介護(小腸機能障害)	29. まとめ																																
15. 内部障害に応じた介護(HIVによる免疫機能障害)	30. 試験																																
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座8・13・14 「生活支援技術Ⅲ」「障害の理解」 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 																															
<p>【担当講師】 佐藤真理子：職歴—看護師歴20年 資格—看護師、介護支援専門員</p>																																	

授 業 概 要

授業科目名 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 水嶋 美和		
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年 2年生	配当時期 通 年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>最終段階の介護実習Ⅱに向けての心構えや動機づけ、事前学習などを行い、実習を通して実践力の向上が図られるようにする。また、実習後は振り返りを通し省察を行い、介護福祉士として身につける必要がある自身の課題を明らかにしていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>実習にともなう必要な知識や技術、介護過程の展開する力など、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。また、グループでの話し合いを取り入れ理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>現段階で身につけた介護の実践力の確認と、課題を明確化し、介護福祉士として資質の向上を図っていく必要性を理解する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 10. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 11. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り① 12. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り② 13. 介護実習Ⅱ(27日間)の進め方 14. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 介護実習Ⅱの事前学習—演習③ 17. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験 </td> </tr> </table>				1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 10. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 11. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り① 12. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り② 13. 介護実習Ⅱ(27日間)の進め方 14. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習②	16. 介護実習Ⅱの事前学習—演習③ 17. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験
1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 10. 介護実習Ⅱ(10日間)の準備と確認 11. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り① 12. 介護実習Ⅱ(10日間)の振り返り② 13. 介護実習Ⅱ(27日間)の進め方 14. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習②	16. 介護実習Ⅱの事前学習—演習③ 17. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(27日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(27日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新介護福祉士養成講座10 第2版介護総合演習』中央法規出版</p> <p>実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(欠席、遅刻、早退を含む)、実習への取り組みの姿勢、実習の省察内容、筆記試験などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 			
<p>【担当講師】</p> <p>水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
介護実習Ⅱ	実習		介護専任
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
	296時間	2年生	通年
<p>【授業の目的・ねらい】 情報収集から始めるアセスメントや介護計画の立案、計画の実施・評価など介護過程を展開し、介護にかかわる科目で学んだ知識や技術を総合的に活用し実践力を高める。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】 前半80時間、後半216時間に分け、原則、前・後半とも同一の実習施設で行い、後半においては夜勤等を含む変則勤務帯の実習も行う。 実習では、実習指導者等の助言・指導を受けながら生活支援の実践を積み重ねるとともに、対象利用者を決め介護過程の展開を実践する。そして、実習を通して専門職としての自覚を養う。</p>			
<p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 生活支援にかかわる利用者個々の課題を明確にし、具体的な支援ができる能力の基礎を身につける。また、介護福祉士のあり方や職業倫理、チームケアなどを学び、専門職としての自覚が芽生える。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】 配属実習とし、特別養護老人ホーム等において夜勤等の変則勤務帯を含めた実習を行う。そして、実習では以下の点について、実習指導者などの助言や指導を受けながらその内容に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象利用者を決め介護過程の展開を実践する。 ・生活支援の実践を積み重ねる。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 実習の手引き 介護総合演習テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 4/5以上の実習を行ない、実習施設の評価と担当教員の評価の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 Welfare Time II	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種/水嶋 美和		
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年 2年生	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】 学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p> </td> </tr> </table>				<p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p>	<p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p>
<p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p>	<p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p>			